

令和2年3月5日

藤井委員

昨年の10月1日の当委員会で質問させていただき、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の記録をしっかりと残していただきたいと、要望させていただきました。

早速今回予算で、記録誌等の予算ということで2,900万円が計上され、知事も英断していただいて、非常に感謝していますが、具体的にどのような記録を作っていくのか、伺いたいと思います。

初めに、神奈川県における東京2020大会の様々な取組、感動等を次世代に伝える記録誌を作成するため、2,900万円計上されていると思いますが、まずこの記録誌等の作成事業の全体像をイメージしやすいように教えていただきたいと思います。

オリンピック・パラリンピック課長

記録誌は、開催が決まった時点から、大会終了後の祝賀会までの記録を本県の歩みといった形で資料を残すとともに、本県で大会が開催されたことを楽しみながら思い返すことができる記録誌や記録映像を作成します。

具体的には、江の島セーリングセンターや、江の島大橋の3車線化といったハード整備の様子、それから2年前、1年前の記念イベントの様子、シティドレッシングやラッピング電車などの祝祭感が伝わる町の様子、事前キャンプ、東京2020オリンピック聖火リレーといった大会直前の様子など各種取組から、本県にゆかりのある選手の活躍、ライブサイトの様子といった、大会中の様子を記録して残していきたいと考えております。

藤井委員

この記録誌は、神奈川県だけではなく、ほかの自治体でも作成すると思いますが、承知しているところがあれば、教えていただきたいと思います。また神奈川県としての特色があれば、併せてお答えいただきたいと思います。

オリンピック・パラリンピック課長

県内市町村では、横浜市は記録誌と記録映像、藤沢市は記録映像、相模原市も記録誌と記録映像の作成を検討していると聞いております。

また、本県の特色ですが、特にセーリング競技については特集を組み、会場が江の島に決定した経緯から、艇の移動の様子、競技海面の調整といった準備の過程、そして大会中の様子まで、詳しく残していきたいと考えております。

藤井委員

次世代を担っていく子供たちに、ぜひ見ていただきたいと思いますが、学校に配布することは検討しているのでしょうか。

オリンピック・パラリンピック課長

私立を含め、県内の全ての小中学校、高等学校、特別支援学校への配布を行う予定です。また、県内の図書館にも寄贈し、子供たちを含め、多くの人たちに、手に取っていただければと考えております。

藤井委員

どちらかというと、若い人たちは、テレビよりも、スマートフォンで済ませているような方が多いので、そういった展開も必要であると思います。若い人が気軽に見ることができる方法、手段をぜひ検討していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

オリンピック・パラリンピック課長

記録誌は冊子版を作成しますが、県のホームページにも掲載し、パソコンやスマートフォンで、皆様が御覧いただけるようにする予定です。映像については、委員がおっしゃるとおり、若い人たちはスマートフォンで You Tube などの動画で見ることも多いと思うので、気軽に見られるように、You Tube にアップしてアクセスしやすいようにしたいと考えております。

藤井委員

記録誌、映像からは離れますが、今日のニュースで、シンガポールのチャンギ国際空港で、アナログの時刻表示を電光掲示板に替えましたが、シンガポールの象徴ということで、国として、しっかり保存するということでした。神奈川県として、実際大会で使用したものを残していくことを、スペースの問題もあるので難しいかもしれませんが、吟味し、後世の若い皆様にも見聞きしていただきたいと思います。前回 10 月の質疑のときには、ポスターやマスコットは残すというお話もありましたが、置き場所、その活用について、どのような考え方をお持ちですか。

オリンピック・パラリンピック課長

ポスター、マスコット、パネル、のぼりもありますが、現物については、県立歴史博物館、県立スポーツセンターへの移管を予定しております。活用の仕方としては、スポーツセンターにおいては、多くの方の目に触れるように、グリーンハウスなどで、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関する展示について検討してまいります。また、歴史博物館では、先ほど保存というお話もありましたが、保存のプロでもあるので、貴重な資料として保存していただき、将来の展示に活用するということです。

藤井委員

この記録誌の作成に当たって、4K8Kの時代になり、臨場感、躍動感は、当時の記録を残していくのに、非常に大事なことだと思います。そのためには、人間の視点の高さや、上空や別の角度からの画像、映像もあればよいと思いますが、どのように考えていますか。

オリンピック・パラリンピック課長

上空からの画像、映像を活用できれば、そのときの町の風景の中に、オリンピック・パラリンピックがどのような空気を運んできたか、町の姿がどうだったか、スケール感を持って後世に伝えていくことができると考えております。そういったものを取り込めば、リアリティーのある記録誌、記録になると考えております。

実際、編さんするに当たり、多くの資料やデータから選んでいくことになると思いますが、上空からの画像や映像も適宜活用していきたいと考えております。

藤井委員

ぜひ御検討いただきたいと思います。組織委員会自体が公式記録ということで、立派なものを作られると思います。組織委員会が作るものを県として活用することも、一つの方法かと思いますが、その辺りの考え方はいかがでしょうか。

オリンピック・パラリンピック課長

組織委員会が残していく公式映像は、県が持ち得ない素材も多くあると考えられます。県が主催した記念イベントやライブサイトなどで蓄積したものとうまく組み合わせれば、時系列的に、よりリアルにその時を思い返すことができる映像集が作成できると思います。組織委員会が蓄積した記録も活用できるように働きかけていきたいと考えております。

藤井委員

この記録誌に関しては、昨年も質問させていただきました。今回も質問させていただきましたが、非常に期待しておりました、様々な形で残っていくことは非常に楽しみです。記録の中で面白いと思うのは、定点カメラのようなものがあり、動きもある、特にセーリング競技は皆様で一番大事なところだと思います。定点カメラで撮影し、その動きがあれば、面白いと思います。

また、新型コロナウイルス感染症のために、本来は機運醸成イベントを開催し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向かって、一番盛り上げていくところだと思います。試練があり、不安定な要素もあると思います。今まで一生懸命、進めてきたことを成果に結びつけるためには、乗り越えないと仕方がないので、これからが正念場だと思いますが、少ない人数の中で、ぜひ協力していただきたいと思います。

次は、一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会について伺います。昨年の当常任委員会で質問させていただいた、県の障がい者スポーツ協会の設立については、発起人会を設立して、年度内の成立を目指すということでした。特に我が会派としても、障害者スポーツの振興ということで、一生懸命取り組んできたこともあるので、大きく期待しています。その中で何点か伺いたいと思います。初めに、前回の質問の後の進捗状況について伺います。

スポーツ課長

進捗状況ですが、法人格を持った団体として設立するために必要となる、一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会設立発起人会を本年1月10日に設立し、2回にわたる発起人会を経まして、定款等を定め、現在公証役場による定款認証までが完了しています。

藤井委員

定款認証まで完了ということですが、発起人会は、どのようなメンバーで構成されているのか、その発起人会の活動に関して県はどのように関与しているのか、併せて伺います。

スポーツ課長

発起人会のメンバーですが、設立に向けた基本方針を作成した準備会の構成員を中心として、一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会の設立後も見据えながら障害者スポーツに造詣の深い学識者等の構成員に加えた8名で構成さ

れております。具体的には、知的、身体、視覚など各障害の福祉団体や、障害者スポーツの関係団体等から推薦いただいた方々です。

また、発起人会の活動については、発起人が主体となり行っていきますが、団体設立までの間、設立に向けた登記などの事務手続については、県が事務局運営の手伝いを支援しているところです。

藤井委員

一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会設立まで、間もなくだと思いますが、今後のスケジュールについて、設立後の動きも含めて伺います。

スポーツ課長

現在、まず器となる一般社団法人を設立するために、公証人役場において定款認証を済ませ、登記手続に入っており、令和2年3月中旬には登記が完了するものと考えております。これに並行して、現在社員となる団体の加入手続を進めており、法人登記上の理事会において設立時の社員となる団体を確定し、第1回目の設立時社員総会を開催する予定です。

藤井委員

一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会ですが、本県の障害者スポーツ運営に向けて二人三脚でしっかり取り組んでいく相手方だと思います。今後、県で障がい者スポーツ協会の発展に向けて、どのように考えて、協会と連携した障害者スポーツの推進を進めていくのか、スポーツ振興担当部長に伺います。

スポーツ振興担当部長

県は、これまでも障害者スポーツの推進に向け、競技大会や普及啓発イベントを実施し、障害者スポーツを支える人材の育成などにも取り組んできました。今回、一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会が設立されるので、障がい者スポーツ協会との連携により、これまで以上に障害種別や障害程度に配慮した障害者スポーツの活動支援が行われるようになると認識しております。そのためにも、障害者スポーツの競技団体や福祉団体、パラスポーツを推進している企業、個人の方々など、障害者スポーツに理解、関心をお持ちの方々に御賛同いただき、当協会に加入していただけると期待しています。

委員からお話があったように、県としても障害者スポーツの推進に向けて、協会と二人三脚で取り組んでいくことが必要だと思っています。しっかり連携し、協会関係者だけでなく、アスリートの方々や障害者のスポーツ活動を支えていただいている県民の方々などからも評価していただける取組を展開していきたいと考えております。

藤井委員

一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会設立はもちろんです、これで終わりではなく、これから始まります。今、スポーツ振興担当部長からも答弁をいただきましたが、障害者団体の方がそれぞれ集まり、県が当然音頭を取って協力し、御答弁にあったとおり、二人三脚で、しっかりとスピードも合わせてゆっくり、しっかり育っていくように、ぜひ頑張ってくださいと思います。多くの皆様が期待を持って、障がい者スポーツ協会の設立を望んでいたもので、しっかりと進んでいくように、引き続きの御支援をいただくことを要望して、質問を終わります。